

久喜の“桜”で広がる
ひと・環境・文化

令和5年度 久喜市環境課主催
大学生と考える
高校生環境ワークショップ
実施成果発表



■令和5年度のテーマ

久喜市の環境について考えるワークショップ。第1回目は、みなさんの好きな“桜”をテーマに、今、自分たちができることを考える。

■今年度の実施行程

- 第1回 ワークショップ：高校生目線のアイデアを探る〈6月10日（土）〉
→みなさんも好きな“桜”に関する環境問題について学び、大学生と一緒にみんなで討論しながら、今、自分たち高校生にできることを考えよう！
- 第2回 プレ現地調査：専門家目線で調査する〈7月22日（土）〉
→現地調査に関する専門的な知識や技術を学び、専門家目線で自分たちができる実践的活動へ発展させていこう！
- 第3回 活動報告会〈9月2日（土）〉
→実際に実施した環境活動をまとめて活動報告をしよう！
また、この活動成果が久喜市をどのように変えるのか、考えてみよう！

■久喜市高校生環境ワークショップ メンバー

私たち12名が、久喜市の環境問題について学び、考えた環境活動を実践しました！



秋葉隆人
久喜工業高校



大野日陽
久喜工業高校



斉藤ゆら
久喜工業高校



渋井優輝
久喜工業高校



木村美紅
春日部東高校



鈴木彩音
春日部東高校



平井里実
久喜北陽高校



前野結衣
久喜北陽高校



増田渉太郎
久喜北陽高校



関 京花
栗橋北彩高校



清水琉聖
栗橋北彩高校



岡本菜々花
鷺宮高校

【協力・支援】日本大学理工学部まちづくり工学科 田島研究室



助教 田島洋輔



M1 小野寺亮太



B4 尾崎滉生



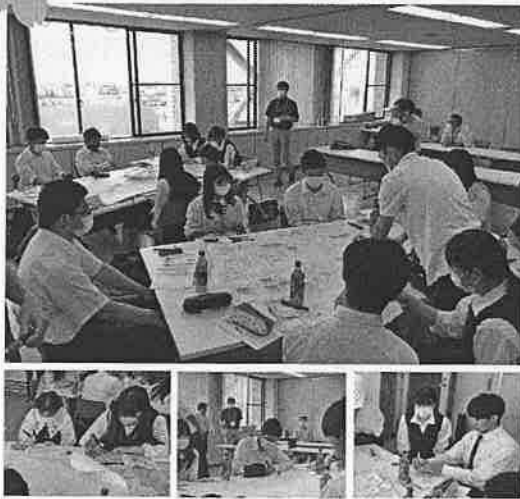
B4 高木亮太郎



2023.6.10 sat

■高校生目線の“アイデア”を探る

初日目は、日本大学理工学部まちづくり工学科の田島助教から、次世代の『久喜市』を牽引していくであろう“高校生”に着目し、久喜市の環境問題への意識向上に資するワークショップ（以下；WS）を開催することで、久喜市内の環境問題に対する具体的な実践方法などについて議論することなどの当該WSの開催概要をお話いただきました。



続いて、久喜市の環境、とりわけ高校生には非常に身近な“桜”をテーマに、今、自分たちにできることを考えました。埼玉県環境科学国際センターの三輪さんより、県内の“桜”のクビアカツヤガミキリによる被害状況をお聞きし、高校生がすぐに取り組めることを考えました。

一人では、実行できないこともたくさんありますが、大学生や同じ高校生の仲間とともに、さまざまなアイデアを考え、テーブル内で議論を深めました。

環境活動の取り組みとしては、WSメンバーが主体となり、専門家から“桜”のクビアカツヤガミキリによる被害状況の調査方法を学ぶとともに、自分たちの住んでいる身近な場所にある“桜”を自分たちで調査します。その結果は、スマートフォンの写真共有アプリ（googleフォト）で、被害状況や位置情報を共有するという簡易的な仕組みとし、共有後に改めて写真による確認を行うことで精度を高めるという取り組みです。なお、ここで得た“被害木の位置情報”を久喜市や埼玉県へ提供する方針です。

さらに、こうした自分たちで実施した環境活動の取り組みに関して、自分たちのSNSを通じて、活動内容に関する情報発信を行うことで、久喜市の環境の取り組みが、次世代の久喜市を牽引していくであろう高校生に届くようになると考えています。



2023.7.22 sat

■専門的視点で調査・分析する

2日目は、埼玉県環境科学国際センターの三輪さんや久喜市環境課の安藤さんより、久喜市の“桜”のクビアカツヤカミキリによる被害状況や、これから実践する調査の実施方法についてご教示いただきました。

今回は、既に被害が深刻化している“清久大池通り”へ出向いて、“桜の被害状況”や現地調査の際に留意すべき点についてご指導いただきました。

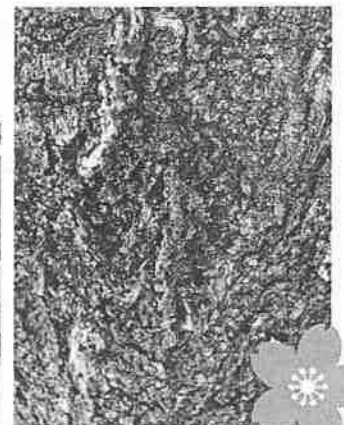


清久さくら祭りで多くの市民を魅了する“清久さくら通り”へ移動し、実際の“桜”をみながら、プレ現地調査を実施しました。思っていたよりも、クビアカツヤカミキリの被害が多く、外来生物の影響が身近に迫っていることを知り、高校生である自分たちでも積極的に協力していくべきと感じました。

普段は、きれいな桜の花だけを見て、楽しんでいましたが、被害が拡大した場合には、この美しい桜が伐採されてしまう可能性を知り、自分たちにもできることをしっかり考えていくべきであることに気づかされました。

桜のクビアカツヤカミキリによる被害を確認する方法としては、樹木中に潜む幼虫が木の中を食い荒らす際に穴から大量に排出する「フラス（木くずと糞がまざったもの）」が目印となることを学びました。樹木のくぼみや根元で確認されたり、木の葉に引っかかるようにして確認される場合もあることを知りました。

また、「フラス」が押し出されている穴も確認することができることを学びました。こうした高校生の取り組みは、自分たちのSNSで情報発信することで、同世代の高校生に環境情報が届けば良いと考えています。



令和5年度 久喜市環境課主催

大学生と考える

高校生環境ワークショップ活動成果

久喜の“桜”で広がる
ひと・環境・文化

■調査方法

- 調査日時 2023年7月22日（土）～8月16日（水）
- 調査場所 久喜市内の既存被害木、久喜市内の桜の名所や桜のある公園など
- 調査方法 ワークショップ（WS）メンバーが通う学校や自宅の周辺にある“桜”を対象に、クビアカツヤカミキリの被害発生状況を調査する。具体的には、WS 2日目に実施した専門家指導の内容をもとに、**高校生環境WSメンバー**が以下の**3つのSTEP**で調査を実施しました。



■活動成果

①クビアカツヤカミキリの被害状況確認調査

WSメンバーによる調査を行った結果、被害木やフラス、成虫などの**計205枚の写真データ**が集まりました。

この調査によって、新たに**68ヶ所**の被害木を確認し、**被害マップ（別図）**としてとりまとめました。確認地点をみると、清久さくら通り沿いに被害木が集中していることから、当地点での早急な対策が求められます。



②高校生環境WSの活動成果の情報発信

高校生が普段使用しているSNS（Instagram等）を用いて、身近な友人たちに環境WSの取組情報を投稿しました。これらの環境情報は、WSメンバーのSNSを通じて、久喜市をはじめとする**410名の高校生**へ情報発信できました。これをきっかけに久喜市の環境行政への興味関心の高まりに期待します！



■今後の展開

本年度の調査では、新たな被害木の位置や被害状況を特定しました。今後は、継続的調査により被害拡大状況を調査・分析することで、先を見据えてクビアカツヤカミキリの**被害抑制**を図ります。

また、より多くの高校生環境WS参加者や調査ボランティアを募るとともに、久喜市や埼玉県との綿密な連携を図ることで、**現地調査の質的向上**を目指します。